女子部・男子部

探求

高野慎太郎、鈴木雄紀、菅野広樹

自由学園では、生涯にわたる探求への道の入口として、探求の時間を設定している。毎週、土曜日午前中の4時間を探求の時間として、設定している。中・高の教職員だけでなく、卒業生、最高学部教員、他大学教員、株式会社トモノカイの大学生による学習サポーターと連携しながら、生徒の探求の支援を行っている。毎年、更新されつつある探求の実践について、報告する。

2021 年度は、生徒が自ら問いを立てて自由に探求を行う「自由探求」を基本とし、同時に、毎週、自由参加の形式での「講座」(図書館ワークショップ、フィールドワーク研修、インタビュー講座、統計解析講座など)を開設した。個人探求のテーマ設定に際して枠は定めず、個人的な過去の関心を振り返るワークをもとに、「本当に関心のあることを探求する」ことを促した。巷にありがちな、お仕着せのテーマ設定にもとづく双六方式の探求教育への批判を根拠とするこうした姿勢は現在も継続されており、それによって、自由なテーマが設定されている。一例をあげれば、「『桃栗三年柿八年』は本当か？」というテーマがあげられる。この言葉にこだわった中一の生徒たち3名は、実際に桃や栗を校内に植えたりしながら、この言葉の意味論的、語用論的な検討を行っている。こうした必然性のある問いをもとに、とことん時間を使って探求するというのが 2021 年度の方針であった。

他方で、教職員による振り返りの中で、2021 年の反省点として、探究方法に関する系統的なアプローチをより効果的に行いたいとの意見があり、2022 年度は、系統的なアプローチを模索した。

具体的には、プログラムの再検討を行い、「ショート探求」、「ミドル探求」として再編した。ミドル探求は、教員が主宰するゼミ形式の探求の時間であり、各領域における問いの設定、研究方法の設定・実践、言語化までのプロセスを3～4週間程度の短期スパンで体験する。ゼミを順繰りに替えることで、多数のゼミに参加し、分野ごと、テーマごとの探究方法論を学ぶことに主眼を置くものである。他方で、ミドル探求とは、2学期以降に実施したもので、生徒の関心に沿って9つのゼミに振り分け、より長期スパンで個人的な関心に基づいた研究を行うものである。ただ、系統的な学びに主眼を置いたため、最初から昨年のような自由探求を進めたいという生徒のニーズに応えることができなかった。そこで、2023 年度のプログラムの再編へと繋がる。こうして、自由学園の探求実践は理念的検討や実践の省察をふまえ、年を追うごとに更新されている。

【対談・発表】

森本扶・高野慎太郎(2022)「対談「探究」～新しい自分を発見する学び～」『婦人之友』2022 年 5 月号, pp.90-100.

高野慎太郎(2022)「探求とはなんだろう？」FM ラジオ局 TOKYO854「鈴木実穂の今を生きる」2022 年 7 月 14 日放送.

【見学来校】

公文国際学園(2022 年7月)

成城学園中高(2022 年 11 月)

阪南大学高等学校(2022 年 11 月)

土佐塾中学・高等学校(2023 年3月)